1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人　金子病院		
事業所名	グループホーム合歓の木（Aユニット）		
所在地	柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	令和 2年 2月14日	評価結果確定日	令和 2年 3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年4月で9年目を迎える本事業所は、日当たりも良く広い空間で明るい雰囲気を持っています。近隣の保育園や中学生の職場体験など開設当初より、継続して交流を持っています。また、地域の方々との交流を深めており、秋祭りの開催や運営推進メンバーの協力のもと地域サロンへの参加を通してご利用者の方々が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう1人1人の希望や思いを尊重し、実現できるよう日々努力しています。医療面においても、母体である隣接する病院と24時間体制で連携をとり、ご利用者やご家族に安心して過ごしていただけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所以来掲げている理念の唱和を継続し、ゆったりとその人らしい生活の支援に努めている。理解しやすい方言で、声の大きさ等に配慮した声かけや対応に努め、暴言や大声を出す入居者の穏やかな暮らし作りを模索している。法人代表が主治医のため、重度化の対応や終末期ケアは入居者や家族の安心となっている。第3回の秋祭りは公民館の物品の貸し出しや館長の落語の披露もあり、30名もの参加で大いに賑わった。地域サロン参加や保育園との交流が継続し、小学生の体験学習も受け入れている。運営推進会議では、参加者から地域の行事等の情報提供や防犯について質問を受け、玄関に防犯カメラを設置予定である。今年度発足した地域包括支援センター主催の地域の困り事を支援する専門職地域支援ネットワークに管理者が参加し、地域包括ケアの促進に貢献している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**Aユニット/グループホーム合歓の木**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りにて、管理者と職員にて唱和している。利用者の個々に合わせ能力が発揮できるよう支援の仕方を話し合いながら行っている。	開所以来掲げている理念の唱和を継続し、ゆったりとその人らしい生活の支援に努めている。仕事はじめの理念の唱和は、理念の確認と意識づけになっていると職員は話している。	認知症対応型共同生活介護が、公的介護保険制度のサービスの1つであるとの認識を共有し、さらなる理念の共有と実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流、介護予防ポイントも継続して行うことができている。本年度も、地域の方々に参加していただき秋祭りを開催する事ができた。地域サロンへの参加も行っており、地域の一員として交流を図っている。	職員が一丸となって取り組んだ第3回の秋祭りは公民館の物品の貸し出しや館長の落語の披露もあり、30名もの参加で大いに賑わった。公民館で開催されている地域サロンへの参加や保育園との交流が継続し、小学生の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進メンバーの方より依頼があり、地域の方に向けた認知症予防と認知症についての講話を行う機会を得ることができ、地域の方々に発信する事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進メンバーの方へ入居者の状況や行事の実施状況を説明している。質問等には、そのつどその場で、説明を行っている。	家族の参加はないが、自治会長や老人会長、民生委員など地域代表や市職員等の参加で定期的に開催され、会議録は玄関で公表している。参加者から地域行事等の情報が提供されたり、防犯対策の質問を受けて玄関に防犯カメラを設置予定である。	運営推進会議設置目的に鑑み、家族の参加を促すために、ホーム便りで家族に会議日時の案内や報告を期待します。また、会議の際にホーム便りの配布の検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから空き状況などの問い合わせがあったりしている。運営推進会議にも参加していただいており、施設の状況などを報告している。	介護予防ポイント制度利用者の受け入れを継続している。今年度発足した地域包括支援センター主催の地域の困り事を支援する専門職地域支援ネットワークに、管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束をしないケアや、言葉の拘束についての勉強会を行った。また、年2回の法人内全体研修に参加するよう声かけしできなかった職員には資料を紹介している。	身体拘束の具体的な行為を理解し、日頃から言葉による拘束についても話し合っている。寝返りをする度にベットから足が落ちるため、家族の了承を得てベット柵を3本使用した経緯もある。多動な入居者もあり、見守りや声かけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	地域で行われた勉強会へ参加し、職員へ報告している。ケアの中で、言葉使いやトーンが大きい職員には注意をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護制度・成年後見制度についての勉強会は、なかなか行うことができていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用者はいないが、パンフレットなどを整備し、研修会の参加を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所見学時に、フロアーや居室を見ていただいたり、疑問点等には、説明を行っている。入所の際の契約時も不安な点など尋ね、理解された上で契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の面会時に、コミュニケーションを図りその中で、要望や意見が出た場合は運営に反映できるように努めている。	月1回行事や日々の暮らしぶりの写真を掲載したホーム便りを発行したり、来訪時に状況を報告している。家族から伺ったトイレ介助や言葉遣いについての意見は、全職員で共有し改善に努める好機となっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、月1回のユニット会議、日々の職員との会話にて意見が出た時は、その都度、管理者同士や代表者に報告し反映できるよう努めている。	各ユニット会議は毎月開催され、全体会議を年数回開催している。各ユニットの管理者は相互の情報を共有し、意見や提案内容に応じて法人代表や担当者に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から定期的に、また必要の都度報告を受けることにより事業の現状及び問題点を把握し、対策にあたっておりやりがいを持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在ホーム全体で、60歳以上の6名の職員を雇用している。お互いが協力して楽しく働けるよう職場作りに努めている。休みの取得も協力しながらとる事ができ、有休も取得できるよう努めている。	ハローワークや職員の口コミで、29歳～69歳と年齢に幅のある男女の職員が就労している。3か月の試用期間を設け、入居者への言葉使い、態度、気配り等を重視している。認知症実践者研修やおむつ検定研修でスキルや知識の習得に努め、有休取得を支援している。入居者の理髪やホーム便り作成に能力を発揮する職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が資料を作成し、ユニット会議時に勉強会を開催した。ケアの中で、気付いたときはその時注意したりして、啓発に取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の人権に関する研修会に参加し、伝達研修をしている。職員同士や入居者への声かけなどの接遇を重視し、さらなる人権研修や啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修がある時は、声かけし参加を促しているが参加率が乏しい。ホーム内で勉強会を行ったり、法人全体での年2回の勉強会へは参加できている。本年度、認知症介護者実践者研修への参加の為、勤務の調整などし、サポートする事ができた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本年度、専門職地域支援ネットワーク「よりめせ」の会員として、同業者の方と地域の困りごとを一緒に考え解決していくためにと、話し合いの場に参加させていただくことができた。他地域のサロンに参加して参加者から、相談を受けることもあった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームへの入所は、隣接する病院からの入所も多いため、病院との連携を図ったり家族からの情報や意見を聞きとり不安なく入所できるよう努めている。入所者の方には声かけをおこなったり、他利用者との関係作りがうまくとれるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や入所時に家族から困っている事や不安な事、○○してほしい等の要望に耳を傾け、少しでも不安が取り除けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの話や意思疎通ができる場合は、本人から要望を聞き、意思疎通の出来ない利用者は行動等で思いを読み取り職員と情報を共有し、どのような支援が必要か検討し対応するよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とのコミュニケーションや関わりにより密接な人間関係を構築している。本人ができることを見つけ、洗濯物たたみや床の拭き掃除を職員と一緒に行い、1人1人の能力に応じて暮らしを共にできるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や生活の様子、心情の変化について家族とコミュニケーションをとり報告をしている。又また、月1回のホーム便りを作成し遠方にいる家族より「ありがとうございます」と、お礼の言葉もいただけた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、以前よりかかりつけだった眼科へ受診に行かれたりしている。また、妹様と外出されたり、面会を待たれている利用者様のご家族へお話をし、一緒に外出できる時間を作ることができた。	毎日や定期的に来訪する家族が多く、訪問調査日も家族と外出し外食をする入居者もあった。フルート演奏や紙芝居で定期的に来訪されるボランティアもあり、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関われるようテーブルの位置を工夫したり、ソファーで一緒に過ごせるようにしている。利用者同士、手助けする場面もみられ互いのコミュニケーションもとれている。ときに、性格の違いから意見が合わなかったりする事もあるが職員が間に入り対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する病院へ入院される利用者もおり、見舞いに行ったりご家族にお会いした際は、お話したりしている。入院された利用者より、ホームで使うだろうからと、広告でゴミ箱を折りホームへ届けてくれる利用者もいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人との日々の関わりのなかで希望や意向が聞かれた際は、できるだけ応えられるよう努めている。安全面を考慮し希望に応えられない場合もあるが、本人と話をし快適に過ごせるよう支援している。	理念のその人らしい暮らし作りを具現化するために、フェースシートに家族構成や職歴を整備し、入居者の意向の把握に努めている。介護計画書に把握した入居者の意向を明記している。	言動をなぜだろうと分析し、共感するためにも、認知症の行動・心理症状に関するアセスメント項目の追加を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、日々の暮らしのなかで本人や家族からどんな暮らしをしてきたのか話をしてもらったりして、1人1人に寄り添い把握できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックにて、健康状態の把握に努めている。日々の生活を記録に残したり、変化に気付いたときは、職員と共有し現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にて、状態の把握や課題をみつけ1人1人に応じたケアや、家族との会話の中での意向などをケアプランに反映できるよう努めている。	ユニット会議で日々の気づきを話し合い、入居者や家族の意向に沿った介護計画の作成や見直しをしている。暴言や大声を出す入居者の生活歴や職歴を理解しながら、穏やかな暮らし作りを模索している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護・看護記録は、職員誰もが記入できるようにしており情報を共有している。毎月のユニット会議にて話し合いを行い、利用者1人1人の支援策について検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意見を聞きながら、その時々の変化にも対応できるよう、職員間と連携をとりながら利用者が過ごしやすいよう対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへ参加し交流を図っている。また、保育園の慰問、中学生の職場体験の受入れも継続して行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院に昔から受診している方がほとんどであり、希望や特変時には優先して受診できるようにしている。他科への受診の希望がある場合は、紹介状を持参し受診している。	法人代表の主治医が状態の把握に週3～4回来訪している。専門医療機関に紹介状持参で受診した入居者もあり、家族の安心となっている。外来看護師との連携で状態の報告やタイムリーな医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化の気づきに努め、管理者や看護職員が隣接する病院へ連絡をし、適切な処置や治療が受けられるようにしている。夜間帯も、いつでも連絡が取れるよう連携をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護職員が連絡をとり、情報交換したりして安心して治療がうけられるようにしている。退院後も、連携をとり利用者が安心して過ごせるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期ケア指針を契約時に話し、同意を交わしている。重度化した場合は、かかりつけの医師や家族と話し合い本人の気持ちをくみとりながら、支援ができるよう医療機関との連携に努めている。	重度化の対応や終末期ケア指針に沿った支援が行われている。看取りはなく、主治医との話し合いで、今年度は4名の方が隣接する医療施設に入院されたが、退院後ホームや自宅に戻られた方もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、初期対応や応急手当ができるようにしているが、系統立てた教育訓練がやや不十分である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及び対処マニュアルを作成している。定期的な年2回の防火訓練では、柳川消防署や消防用設備管理者の支援を受け訓練を実施している。災害時の非常食も備えている。水害時や地震時の訓練が不十分であり今後、訓練の計画を立てていきたい。	運営推進会議で地域の方に火災時の協力をお願いし、隣接する母体医療機関が災害時は被援護者の避難所として市のハザードマップに記載されている。隣接の医療機関だけでなくホームでも食料や飲料水を備蓄している。	水郷地帯でもあることから、さらなる防災対応として、備蓄台帳の整備や入居者に関する持ち出し書面の検討を期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に合わせた声かけを行い、本人の意向に添うよう支援している。入浴時やトイレ誘導時、おむつ交換時には、プライバシーの配慮に気をつけている。	名字で呼びかけ、理解しやすい方言で対応している。認知症の特性を理解した声の大きさやトーンに配慮して簡潔な声かけや対応に努力している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と同じ目線にたち、1人1人の思いに気づけるよう心がけ自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を聞きながら、日々の暮らし作りに努めている。食事の時間をずらす等本人のペースで対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数を占める女性職員の特性を発揮し、きめ細やかな対応によりその人らしい身だしなみづくりに努めている。髪を切ってほしいと要望のある利用者に対し、職員が対応し本人の要望に応じながらおしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人に応じた食事形態を職員で話し合いながら、楽しくおいしく食事ができるよう支援している。	ご飯や汁物はホームで作り、医療機関厨房で作られた副食は、咀嚼や嚥下に応じてキザミにしたりトロミをつけている。おやつのホットケーキ作りを楽しんだり、お盆や食器拭きをお願いする入居者もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人1人の状態や意向に合わせ、量の調整を行っている。水分摂取量、食事摂取量を毎日記録し、水分量の少ない利用者には心がけて水分を勧めたり、食事量の少ない利用者は様子を見ながら隣接する病院へ報告をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し清潔に保てるよう支援している。義歯の方は、週2回洗浄液につけて気持ちよく過ごせるよう努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は、トイレにて排泄ができるよう時間をみて誘導したり、1人1人の訴え時に対応できるようにしている。また、トイレ排泄時やおむつ交換時には陰部の洗浄を行ない清潔に努めている。	排泄が自立している入居者もあるが、尿取りパットの交換の促しやウォシュレットなどでの陰部洗浄で尿路感染はない。入浴時にストーマの付け替えを支援する入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外での水分補給を促し、便秘の人はトイレ誘導の回数を増やしたり主治医に相談しながら薬を使用したりしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人週2回の入浴を実施している。タイミングや希望に合わせ温度調整も行っている。また、体調によっては主治医の指示により入浴日の変更を行ったりしている。	各ユニット毎に週2回の入浴を支援している。入浴拒否や同性介助の希望はないが、シャワー浴や一番風呂の希望、好みの湯温に応じたり、シャンプーの持ち込みもある。入居者とゆっくり話す時間にもなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、フロアーにて過ごしてもらえるよう体操やレクレーションを実施し、身体を動かすことにより安眠できるよう支援している。身体の状況により、昼食後に休息ができるよう声かけしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成しており、利用者各々の服薬の種類や効能について周知している。症状の変化を気がけて観察し、かかりつけ医にいつでもいつでも相談できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なじみのある歌を歌ったり、ベランダに花や野菜を植えた際は、水やりをしてもらったりして1人1人が役割を発揮できるよう務めている。柳川で歌われるご当地歌を歌うのも現在の楽しみである。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や利用者の状況に応じて、散歩に出かけたりできるよう努めているが、職員の人員配置に苦慮しておりなかなか外出することができていない状況であるが、地域サロンへは民生委員の協力で出かけたりしている。近所の梅の花見学やさげもんの見学を今後は予定している。	梅やさげもん、藤、ひまわりなどの季節の花見や行事の見学は、法人所有の車などで出かけている。ユニット単独で足湯に弁当持参で出かけている。日頃は近隣公民館の地域サロンに出かけたり、家族と外出する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保管には、注意しているが現実には厳しい状況である。必要な物や本人が希望される物は家族の方に購入してもらったり、場合によっては職員が買い物へ行ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、施設の電話を使用されたり、遠方にあられる娘様や妹様から電話がかかってくる時もあり、その都度本人へとりついでいる。携帯を持ち込まれてある利用者には家族と相談し時間を決めて本人へ手渡している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキ側から光がさし、フロアーは明るい空間つくりができている。また、居室や廊下も広く利用者1人1人に応じ、心地よく過ごせるよう努めている。利用者が自宅へ外出した際や家族の方から、自宅の庭に咲いていたからと、すいせんの花を持ってきていただき飾らせてもらったりしている。	明るく広い共有空間はテーブルや椅子、大型テレビの前にはソファが設置され、ユニット間の間仕切りにはご当地歌や入居者作成の塗り絵が掲示されている。空調が管理され、食事やレクリエーションを楽しみ、ソファで仲良く話し込む入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ側から光がさし、明るい空間にて気の合った利用者同士、話をしたり、テレビを持ち込まれている利用者は居室にてテレビを見る時間を持てたりして、各々過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族が希望される家具は極力希望を叶えられるよう努めているが、利用者の状態によっては難しい時もある。	入口に職員が折った鶴や折り紙が可愛く掲示されている。ベット、整理箪笥、小箪笥は設置され、テレビを持ち込んでいる居室もある。入居者と一緒になって衣類の整理を手伝う方もあった。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーや廊下は、動きやすいよう空間を広く取り手すりの設置もあり安全に歩行ができるようにしている。車椅子使用の方も、自己駆動を促し出来る事を促している。		